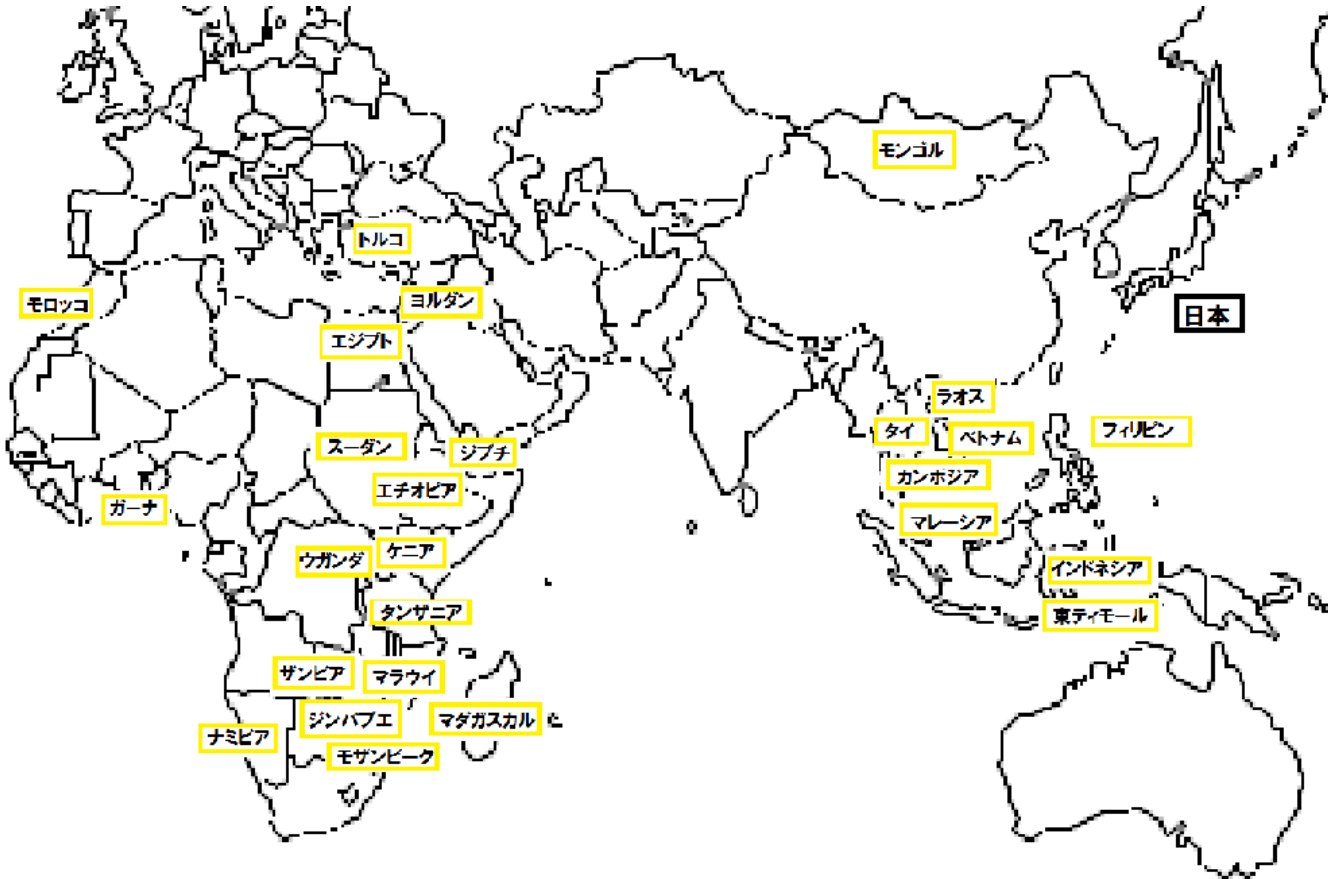


今、自分自身は何のためにいるのか。

何のために協力隊員として海外へボランティアに行くのか。



訓練所の修了式で訓練生の代表が問いかけました。「今自分自身は何のためにいるのか、何のために海外へボランティアに行くのか…」その理由は 172 人全員違います。福島県で共に訓練を受けに来るまでに学んだことも、積んできた経験も、仕事も違います。これからそれぞれの行く国も、活動する内容も違います。でも、世界で誰かのために何かをしたいという思いは一つです。1 人では変えられないことも、172 人がそれぞれの場所で頑張ったら 172 通りの変化があるかもしれない。一人ひとりができることは小さくても、頑張ろうと思う人が増えれば、一步を踏み出す人が増えれば、大きなことにつながるかもしれない。

70 日間の訓練を家族のように過ごした仲間たちは、世界 28 ヶ国に旅立ちます。初めて聞いた国でも、日本と何かのつながりがある国です。ぜひそれぞれの国と日本のつながりを探してみてください。そして、それぞれの地で奮闘する協力隊員にこれから目を向けていってほしいと思います。

～アジア・中東編～

モンゴルで日本語を教える澤知子さん



<きっかけ>

ニュージーランドの大学で、言語教育を勉強し、フィリピンのマニラで日本語を1年間教えていました。個人では簡単に行けない国で日本語を教えたいと思い、参加しました。

<モンゴルでの仕事内容>

モンゴルの国立大学の日本語学科で日本語を教えたり、日本文化の紹介をしたり、国際交流のイベントを実施する予定です。日本語とモンゴル語の比較もしてみたいと思います。

トルコで経営管理を指導する関口康範さん



<きっかけ>

アメリカ・スイス・ドイツの化学製品を作る会社で人材育成や組織改革、問題解決をする仕事をしていました。その後、難民支援団体に仕事をし、世界で人々を支援する活動をもっとしたいと思って参加しました。

<トルコでの仕事内容>

トルコのアンカラにある政府による組織の中小企業開発機構で、人材育成と組織改革のノウハウを教えに行きます。トルコにはシリアやアフガニスタンからたくさんの難民が来ているので、難民支援もしたいと思っています。



この協力隊通信の発行者である酒井美規子です。モロッコに小学校教育で派遣されます。京都の私立中高と大阪の公立中学校で英語を教えました。

ニュースを見るとテロや戦争など、世界では悲しい出来事がたくさん起こっています。自分が教えてきた子どもたちと同じ年齢ぐらいの子どもたちが亡くなったり、テロや戦争で家や家族を失ったり、命を懸けて隣国に逃げたり、武器を持って戦わなければならなかったり…というニュースに心が痛みます。きちんと教育を受けて、自分のやりたい仕事につける子どもたちが増えて、一人ひとりが正しい判断をできるようになってほしい、そして悲しい出来事を減らして幸せに暮らせる世界になってほしいと願い、協力隊員になりました。モロッコはアラビア語とフランス語が使われている国なので、私はアラビア語とフランス語で中東地域やアフリカの人たちと話せるようになりたい、そして武器ではなくペンや本を持って正しく生きる子どもたちが増えてほしいと思っています。

日本から中東やアフリカは遠い場所にかもかもしれません。でも同じ年代の子どもたちがどのように暮らし、どのような夢を持っているのか、そして私がモロッコで何をしているのか、何ができるのかを日本に発信していきたいと思っています。